

GINORI 1735

ITALIA

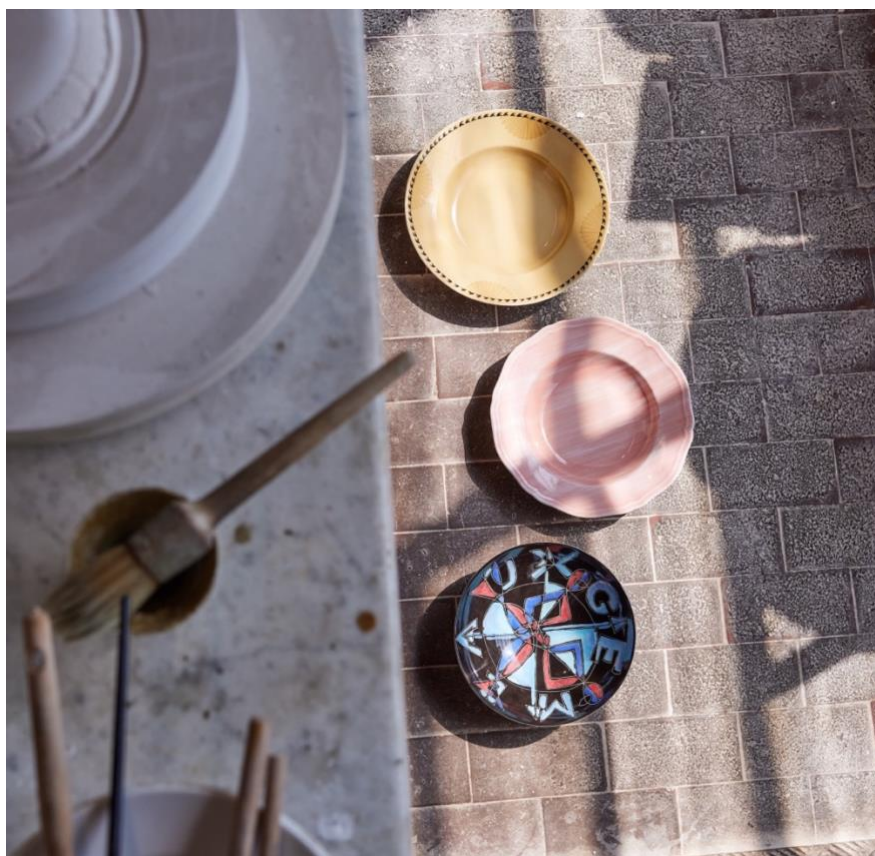
GINORI 1735主催、REBORN PROJECT展

デザイン・マイアミ/マイアミビーチで開催

フレデリック・シャンブル企画・監修

会期：2023年12月6日（水）～ 10日（日）

会場：Convention Center Drive & 19th Street, Miami Beach, USA



デザインと芸術的磁器の世界におけるイタリアを代表するブランドGINORI 1735は、パリオーケオン界のパイオニアと知られるフレデリック・シャンブル氏が企画・監修する「**REBORN PROJECT**（リボーン・プロジェクト）」をデザイン・マイアミ/マイアミビーチにて初めて披露します。

2021年のパリ、2022年のミラノとロンドンに引き続き、今回マイアミでの第4弾となる展示では、シャンブル氏が選出した10人の国際的アーティストによる優れた作品の数々を、デザイン・マイアミのGINORI ARTE専用スペースにて鑑賞することができます。



GINORI 1735

ITALIA



GINORI ARTE プロジェクトの一環として展開する REBORN PROJECT の発端は、GINORI 1735 の高品質な要件を完璧に満たさず廃品ストックとなった規格外品へのサステナブルなアプローチにあります。感知できない程度の小さな傷、微細なディテール、容積の違いなどを理由に、陽の目を見ることのないプレートやボウル、花瓶などの未完成品に、国際的に活躍するアーティストたちが新たな息を吹き込み、今に蘇らせるというプロジェクト。GINORI 1735 を象徴する白磁器が、REBORN PROJECT によって唯一無二のアート作品に生まれ変わります。

それぞれのアーティストの際立つ個性を宿した作品の数々は、マニュファクチャラーの職人たちのサヴォアフェールを体現し、GINORI 1735 のビジョンと美学を映し出しています。REBORN PROJECT は、卓越した職人技へのオマージュであり、GINORI 1735 の革新と現代性へのたゆまぬ挑戦の証でもあります。すべてがハンドメイドで製作された唯一無二のアート作品であり、アーティストの署名とGINORI 1735 が発行する鑑定書が添えられています。



GINORI 1735

ITALIA



GINORI 1735の社長兼CEO、アラン・プロストは以下のようにコメントしています。

「GINORI 1735は常に、美しさ、オリジナリティ、クラフツマンシップの象徴であり、未来を見据えた創造性と大胆さも併せ持っています。だからこそ、私たちはフレデリック・シャンブル氏とのコラボレーションにより2021年に立ち上げたGINORI ARTEプロジェクトに対し、強い信念を抱いています。私たちはこの『REBORN PROJECT』を通じ、秀でた感性と創造性で私たちの製品を解釈する国際的な才能たちを巻き込みながら、芸術的表現の新たなカタチを探求し、創り出す機会を得ることができました。彼らとマニュファクチャラーの巧妙な職人たちの才能のおかげで、これらの唯一無二のアート作品が私たちの卓越性と革新の伝統を継承してくれるのです。」

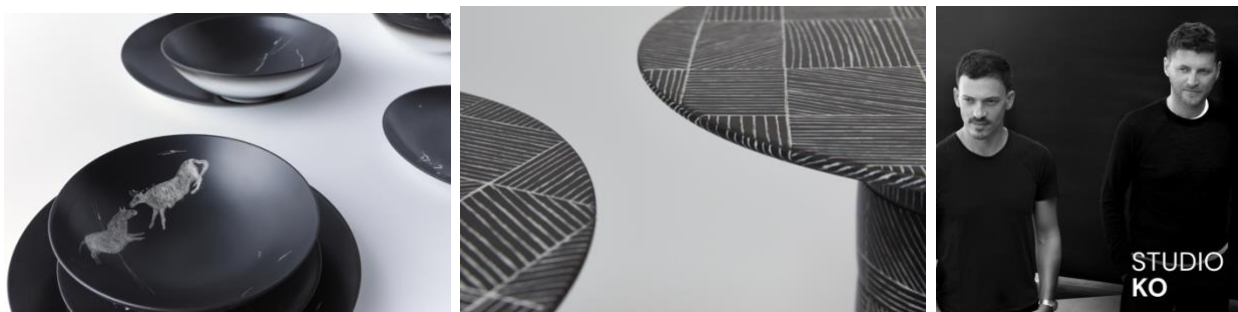


GINORI 1735

ITALIA

【参加アーティスト／作品コレクション】

Studio KO (スタジオ KO) / 「Les taureaux (レ・トーロー)」



建築家デュオ、オリヴィエ・マルティとカール・フルニエは、人類史における芸術の誕生を想起させるデザインを黒地に描いた。各デザインは、色を除去する特殊技法によりコントラストをもって浮かび上がる。米アーティスト、ソル・ルウィットへのオマージュとして2つのゲリドン（小さな円卓）もデザイン。

Festen (フェステン) / 「Linneaus (リネウス)」



インテリアデザイナーデュオのシャルロット・ド・トナックとユーゴ・サウザイによるテーブルウェアは、現代的スタイルを備えた自然主義的ミニマリズムを表現。この新鮮なアプローチは、貝殻からインスパイアされており、ダークなトーンで新たなフォルムとパターンを再構築している。コレクションには、磁器製のランプと2つのゲリドンが含まれる。



GINORI 1735

ITALIA

Isabelle Stanislas (イザベル・スタニスラス) / 「Empreinte (アンプラント)」



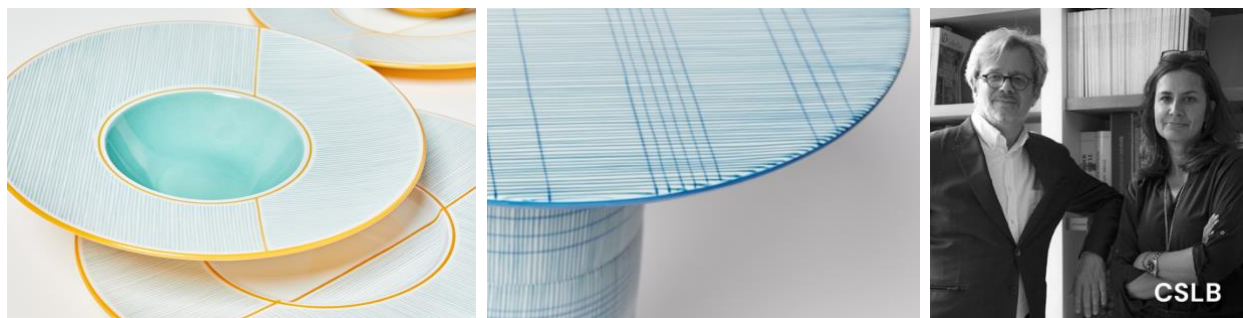
建築家でインテリアデザイナーの彼女がデザインしたテーブルウェアは、手描きによる黒いラインがクリエイティブな力強さを印象づける。コレクションには、磁器製のランプと2つのゲリドンが含まれる。

Charles Zana (シャルル・ザナ) / 「Simbolo (シンボロ)」



建築家でありインテリアデザイナーでもある彼は、GINORI 1735のテーブルウェアに、技法と色彩の独創的な融合を実現している。コレクションには、磁器製のランプと2つのゲリドンが含まれる。

CSLB (シーエスエルビー) / 「Sillons (シヨン)」



デザイナーデュオ、キャロリーヌ・サルコジとローラン・ブルゴワは、48点のテーブルウェアに、無限に広がる線で幾何学的な装飾を創り上げた。コレクションは、磁器製のランプとゲリドンを含む。



GINORI 1735

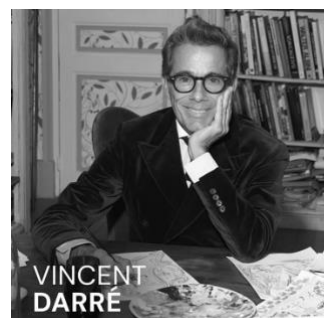
ITALIA

India Mahdavi (インディア・マフダヴィ) / 「Bruto (ブルート)」



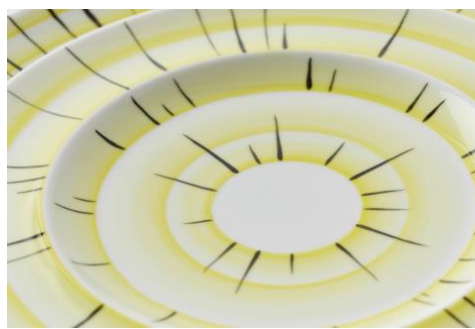
インディア・マフダヴィは、ポップをキーに筆触のようなテクスチャーと鮮やかな色彩からなるテーブルウェアをデザイン。コレクションには、磁器製のランプと2つのゲリドンも含まれる。

Vincent Darrè (ヴァンサン・ダレ) / 「Zodiaque (ゾディアック)」



デコレーター、家具デザイナー、舞台デザイナー、画家であるダレは、12星座から着想を得た夢のような装飾を施したテーブルを創作。ブラックと鮮烈な色彩の絶妙な組み合わせは、まさにクリエイティブな挑戦であり、職人のサヴォアフェールの賜物。磁器製のランプと2つのゲリドンもラインナップ。

Jacques Grange (ジャック・グランジュ) / 「Spin painting(スピン・ペインティング)」



インテリアデザイナーのジャック・グランジュ氏は、12人用のユニークなテーブルウェア、磁器製のランプとゲリドンに、動きのあるラインで鮮やかな色彩の抽象的な重なりをデザインしている。



GINORI 1735

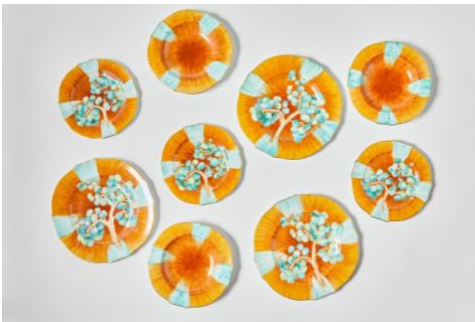
ITALIA

Pierre Passebon(ピエール・パスボン) / 「Gold rush (ゴールドラッシュ)」



ギャラリーオーナーでアーティストのパスボン氏は、アメリカ文化へのオマージュとして、小さなゴールドを散りばめた磁器製のテーブルウェアとテーブルランプ、ゲリドンを実現。

Cathy Vedovi (キャシー・ヴェドヴィ) / 「Miami (マイアミ)」



アーティストのヴェドヴィは、自身がとりわけ愛着を抱くマイアミの象徴的な美意識からインスピレーションを得て、輝くトロピカルな自然の色彩に呼応するテーブルウェアをデザインしている。

【プロフィール】

Frédéric Chambre (フレデリック・シャンブル)

法律と美術史の学位を取得後、オークショニアの巨匠、クリスチャン・ド・ケイとフランシス・ブリエストに師事。1996年にオークショニアに任命され、自身の事務所をパートナーと立ち上げる。その後、ピエール・ベルジェールに入社し、2002年から2012年まで当社の副社長として活躍。2013年よりピアサ社の副社長兼マネージングディレクターに就任し、アーティストとオブジェ、コレクターと作品の親密な関係



GINORI 1735

ITALIA

性に焦点を当てて活動。また、装飾美術に情熱を傾け、フランス、アメリカ、スカンジナビアのデザイン史にも精通。特に20世紀のイタリアンデザインに深く傾倒し、「シンプルさと狂気、古典主義とバロック」が融合したデザインだと捉えている。氏はジオ・ポンティの作品を通じてGINORI 1735に親しみ、フィレンツェの工房が生み出すコレクションの数々とその卓越した職人技に魅了されている。また、著名なアーティストやデザイナーたちに、テーブルウェアやランプ、花瓶など、ユニークな作品を創作させる機会を創出し、GINORI 1735の磁器製品に新たな命を吹き込むチャレンジに着手。こうして誕生したのが、ルネッサンスの精神から「スタイルの美、選択の意義、個性」という3つの基本原則を取り入れた「REBORN PROJECT」。卓上の芸術に新しい視線を与えている。

Studio KO (スタジオ KO)

カール・フルニエとオリヴィエ・マルティは、パリ国立高等美術大学で出会い、ふたりの建築とデザインにおける独特なビジョン形成を紡ぐクラシカルな建築教育をここで享受する。2000年には、ふたりはパリとマラケシュの両方に拠点を置くStudio KOを設立し、世界各地の公共建築や住宅プロジェクトに着手。そのスタイルやアイデアにおける投入的な取り組み方や妥協のない自由な発想、そして独自のシナリオを活かす欲求こそが、彼らの各地現場の環境特性への深い理解と、柔軟な調和能力を可能にしている。彼らのプロジェクトは、クライアントとのヒューマンな対話に始まり、現場の物理的、感覚的、社会的な深い探求へと結ばれる。ベーシックな主要素材を好み、ミニマルなラインと素材のテクスチャーの間に生まれる緊張感を特徴とする空間を創出し、謙虚でありながらも独自性を体現し、経年に挑戦する繊細かつ豊かな建築を生み出している。アンドレ・バラッツによるロンドンのホテル、チルターン・ファイヤーハウスや、マラケシュのイヴ・サンローラン美術館、バルマンのブティックなど。今回GINORI 1735とは初コラボレーションとなる。

Festen (フェステン)

公私ともにパートナーであるシャルロット・ド・トナックとウーゴ・サウザイは、エコール・カモンド国立工芸学校でインテリアデザインの学位を取得後、2011年パリにStudio Festenを設立。ホテル、個人邸、舞台デザインを手掛け、奥行きのあるコンテンポラリーな環境を創り出す。フェステンは、主に歴史的な物件を多く扱い、それらのオリジナルの特性を尊重しながら、さまざまなムードを持つエクレクティックな内装を実現させている。伊ポルトフィーノのホテル・ベルモント・スプレッティッド・マーレや、ロンドンのフィッツロヴィア地区に佇む1950年代スタイルのオフィス、そして何よりパリのホテル、シャトー・ヴォルテールやロシュシュワール、ル・ピガールといった数々は、コンテクスチュアルなデザインを得意とするふたりによって変貌を遂げた物件例。歴史、空間の本質とその内なる存在理由は、Festen Studioのすべてのプロジェクトの出発点であり、古典的な空間を再解釈しながら、その原初の構造を引き立てることを目指している。



GINORI 1735

ITALIA

Isabelle Stanislas (イザベル・スタニスラス)

アート、建築、デザインを織り交ぜ、これらの領域の境界を払拭させる女性。パリ国立高等美術大学で建築を学び、2003年パリにアトリエを開設。世界中の数々の個人邸を手掛けながら、エルメスやカルティエのためのアーティスティックコンセプトや舞台デザインなども担当する。その特徴は、空間の歴史とクライアントそれぞれのパーソナリティの間の本質的なバランスの探求であり、彼女は「素材」を大胆でコンテンポラリーな空間を創造するための言語だと捉えている。ディテールへのこだわり、ミニマリズム、フレンチスタイルのユニークな解釈で定義される彼女流の幅広いアプローチは様々な作品エクジビションでも軸となっている。また、パリ装飾芸術美術館、フランス外務省、パリ近代美術館をはじめ、ローマのヴィラ・メディチやフランス大使館、ミラノサローネなどでも作品展示をしている。2018年、仏モビリエ・ナショナルのコンペティションに参加した彼女は、パリのエリゼ宮殿のレセプションルームの装飾も手がけている。

Charles Zana (シャルル・ザナ)

建築家、インテリアデザイナー。パリ国立高等美術大学で学ぶ。パリからロンドン、ニューヨーク、テルアビブ、モナコを経、30年にわたるキャリアの礎を築く。コンフォート、エレガンス、ハーモニーが、彼のすべてのプロジェクトにおける軸であり。アートとデザインに対するその愛を十分に表現する環境を築き上げている。彼はまた、アンドレア・ブランツィ、エンツォ・マーリ、エットレ・ソットサスといったイタリアの巨匠デザイナーたちについて造詣が深く、2018年に書籍『Charles Zana: Interiors』を出版。そこで、彼は古典主義に振り返り、感情と結びついたインテリアにこそ彼の真のビジョンの基盤があると示している。美学者でありコレクターでもあるフランス人建築家である彼がデザインした空間を体験することは、技術と美が会おうエグジビションを案内されるようなもの。パリのアトリエにてチームで活動しながら、カモンド国立工芸学校で建築とデザインの教鞭をとる。2019年、パリ装飾芸術美術館のダヴィド・カメオ館長から芸術文化勲章シュヴァリエに任命された。

CSLB

フランス人デザイナーのキャロリーヌ・サルコジとローラン・ブルゴワが主宰するCSLB社は、彼らの長期に渡る協業を背景に、2014年にCSLB STUDIOとともに設立された。バランスの良いモダンな空間デザイン志向を基盤にする。パリのフラット、バハマのコテージ、中東の二世帯住宅など、どのようなプロジェクトにおいても、CSLBはその土地の文化に忠実でありながら、エレガントでコンテンポラリーな美学を表現。その目標は、クラシカルなスタイルと洗練されたグローバルテイストを新鮮に再解釈し、空間本来の精神性とそこに暮らす人々の物語を伝えることだ。サルコジは、アジア、中東、アメリカという国々で暮らした幼少期に多大な影響を受けており、ニューヨークのパーソンズ・スクール・オブ・デザインを卒業後、著名建築家アンドレ・プットマンとの仕事を経、1998年に自身のエージェンシー、CS Decorationを設立。一方、パリ国立高等美術大学で学んだブルゴワは、1989年にLaurent Bourgois



GINORI 1735

ITALIA

ArchitecteおよびLB Decorationを設立。長年にわたりプライベートな建築、インテリアデザインプロジェクトに焦点を当てている。

India Mahdavi (インディア・マフダヴィ)

テヘラン出身、アメリカ、ドイツ、フランスに育つ。パリ国立高等美術大学で建築を、NYのパーソンズ・スクール・オブ・デザインで家具デザインを、スクール・オブ・ヴィジュアル・アーツでグラフィックデザインを学ぶ。そのスタイルは、モダンな快適さとエレガンスに、色彩とユーモアをブレンドさせた多言語的アプローチが際立ち国際的な魅力を放つ。それは、建築、インテリアデザイン、舞台デザイン、家具、オブジェデザインという分野を横断的に行き来し、探求する彼女の芸術的なライフスタイルそのもの。新鮮で喜びにあふれたスタイルや、西洋における独特のオリエンタル・ポップスタイルを創り出す。そのエクレクティックな色彩の使い方や、大胆で活気に満ちた色調は、この多才なイラン系フランス人アーティストのスタイリッシュな特徴でもある。彼女は、各プロジェクトを、未解決の質問として捉えており、その質問に応えられるのは空間の物語のみだとしている。つまり、手掛けるプロジェクトに独自の物語が生まれるよう、柔軟に創造的にデザインに取り組む。2000年、パリにアトリエを構え、仏アルルのホテル・デュ・クロワトル、モナコのモンテカルロ・ビーチ・ホテル、ロンドンのギャラリー・スケッチ、ロサンゼルスと東京のパティスリー・ラデュレなど、多くのプロジェクトに携わっている。

Vincent Darrè (ヴィンセント・ダレ)

氏のクリエイティブな才能は、イヴ・サンローラン、プラダ、カール・ラガーフェルド、モスキーノなどとの仕事を通じ、ファッション界で養われた。2008年以降、彼のアートへの愛がインテリアデザイン界へと誘う。デコレーター、家具デザイナー、舞台デザイナー、画家として、彼はその大胆さで人々を驚かせることを止むことなく、装飾芸術へのモダンなオマージュを称えている。彼を気まぐれで奇抜、バロック的と見なす人もいるが、ダレ氏は何よりも自由で俊敏。そのコレクションは、シュルレアリスムの美学と、夢と現実の相互作用に基づき、空想力に富み、エキセントリック。手がけた家の数々も同様に、彼の奇抜なクリエイティビティの実験室と化している。サン・ジェルマン・デ・プレのホテル・モンタナ・パリやヴァンドーム広場のメゾン・スキャパレリなどのホテルを手がけ、パリのギャラリー・デュ・パサージュやロンドンのPAD、ローマのギャラリー・マガッツィーノといったアートギャラリーで自身による家具を展示している。そのシアター的スタイルのおかげで、展覧会やオークションを企画し、最もエクスクルーシブなパリのソワレを手がけている。2016年には、パリのロワイヤル通り13番地に自身のサロンをオープンし、フランスの最高峰の職人技を展示している。

Jacques Grange (ジャック・グランジュ)

デザインの巨匠と知られるグランジュ氏は、パリのエコール・ブール国立工芸学校とエコール・カモンド国立工芸学校を修了し、わずか20歳で20世紀を代表する仏インテリアデザイナー、アンリ・サミュエルのアトリエにて非凡なキャリアをスタート。1970年以来、彼の作品は、建築とインテリアデザインにおける優れたフランスの伝統を継承し、繊細で洗練された独特のテクニクと、模倣できないタッチで展開



GINORI 1735

ITALIA

されている。センスの良さと大胆さを併せ持ち、エクレクティックなバランスを追求しながら、伝統と現代性、東洋や北アフリカのムードと西洋のスタイルとを見事に調和させる。グランジュ氏は、芸術文化勲章シュヴァリエ、レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを授与されており、タイム誌の世界で最も影響力のあるデザイナーのひとりにも選ばれている。彼は、フランスの最高峰の職人たちと共に、常に進化する美学を取り入れた空間を創り出し、アーティストとしての常なる現代的なビジョンを体現し続けている。イヴ・サンローラン、モナコ公国のカロリーヌ・モナコ、フランシス・フォード・ Coppola などのセレブリティの私邸を数多く手掛けるほか、ニューヨークのザ・マーク、マヨルカ島のホテル・カプチーノ、リヨンのヴィラ・マイアといった数々のホテルもデザイン。GINORI 1735とのコラボレーションを今回のREBORN PROJECTで再開。

About Pierre Passebon (ピエール・パスボン)

装飾芸術と現代デザイン界でとても真摯なパーソナリティとして知られる。冒険家であり発見家、デコレーター、情熱的なコレクターで、1992年にはパリにギャラリー・デュ・パサージュを設立、美の愛好家たちにとってのインスピレーションの場となった。氏のエクレクティックで驚きに満ちた比類なき才能は、氏が手掛けるエキシビションにも見頃に反映されている。それはジオ・ポンティやフランコ・アルビーニのデザインに始まり、リン・デイヴィスやデヴィッド・リンチの写真、ベラ・シルヴァやジュゼッペ・デュークロの陶器、モナコ美術館の舞台美術やヨーロッパ写真美術館、ポルトガルのエヴォラにあるカダヴァル侯爵邸の舞台美術など多岐に至る。また、氏は卓越した美術の専門家に留まらず、アレクサンドル・ノルやマレーヌ・ディートリッヒ、コミックなど、多岐に渡る氏の情熱についての本を出版する編集者でもある。さらに、2010年に芸術文化勲章シュヴァリエを、2015年にはオフィチャーレ勲章を授与している。GINORI 1735とのコラボレーションを今回のREBORN PROJECTで再開。

Cathy Vedovi (キャシー・ヴェドヴィ)

現代アートのコレクターであり、アメリカとヨーロッパ間を行き来するインテリアデザイナー。彼女はアートディーラーの両親をもち、夫はギャラリストのパオロ・ヴェドヴィ。アメリカのデザイナーたちに魅了された彼女は、ロスのファッション・インスティテュート・オブ・デザイン&マーチャンダイジングで学ぶ。その後、パリのポンピドーセンター、ロサンゼルスでのMOCA、マイアミのバス・ミュージアムオブアートの取締役会に参加し、仏ギャラリストのエマニュエル・ペロタンの協力でマイアミにアートギャラリーを開業。数年にわたり建築家ブノア・ドゥピュイと様々なプロジェクトで協働する。個人顧客向けの物件のリノベーションから、バハマのノーマンズケイにあるヨット&ビーチクラブのデザインに至るまで、彼女のデザインに対する直感的で創造的なアプローチは、古典的な要素と、空間と色彩の壮大で活気に満ちたビジョンを融合させており、常にアートの存在によって豊かになっています。アートは彼女のすべてのプロジェクトにおける出発点だ。



GINORI 1735

ITALIA

About GINORI 1735

GINORI 1735は、約3世紀に渡りラグジュアリー&ライフスタイルの分野における世界有数のブランドとして、真の磁器、デザインにおけるイタリアの卓越性を表現してきました。2013年よりケリンググループの一員となったGINORI 1735は、ファッション、アート、デザイン、建築、映画、インテリアデザイン界の優れた才能たちとの強い関係性を築き上げています。伝統と革新が見事に融合したその製品は、テーブルウェア、アートオブジェ、ギフト用品、照明、家具、ファブリック、ガラス製品、カトラリーなど多岐にわたります。ブランドのアイコンである王冠のマークは、ブランドの真髄であるクラフトマンシップと芸術の完璧な融合を象徴しています。イタリア・フィレンツェを拠点とするその歴史的工房、マニファクトゥーラは、世紀を超え継承された芸術的技術の結晶であるサヴォアフェールを、最先端テクノロジーが支えるユニークな場所となっています。GINORI 1735は、日常生活の喜びと、芸術的表現の再発見と再生を通して、現代のルネッサンスを推進しています。今日、GINORI 1735の世界は、マニファクトゥーラの伝統を新たなビジョンで再解釈し、アートを日常生活に、日常生活をアートに導く力を秘める新世代のマイスターたちの多様な価値観とスタイルで再構築されています。GINORI 1735は、フィレンツェ、ミラノ、パリ、ソウル、ロンドンに店舗を構え、またヨーロッパ、アメリカ、中東、アジア太平洋地域の名高い販売店で展開しています。さらに、一流のホテルチェーンや世界中の洗練されたレストランとも重要なパートナーシップを築き上げています。また、独自のEコマースチャンネルを、世界30カ国以上で展開しています。

<https://www.ginori1735.com/jp/ja>

GINORI
1735



【読者様お問い合わせ先】

GINORI 1735

<http://www.ginori1735.com/jp/ja>

※上記 URL にアクセスの上 Contact ページよりお問い合わせください

【プレスに関するお問い合わせ先】

本件に関するご取材、撮影、商品のお貸出し、ご掲載希望の際は下記の担当までご連絡ください。プレスキットは[こちら](#)から。

GINORI 1735 Japan Press Office

デイリープレス 川村 e-mail: press@richardginori.co.jp

